

令和8年堅果類(ドングリ)の豊凶調査結果に基づく秋のツキノワグマの出没予測について

県では、秋のツキノワグマ（以下「クマ」）の出没予測の判断材料として、クマの主食とされる堅果類（ドングリ）の豊凶調査を実施しています。今般、今年の豊凶調査の結果及びこれに基づく出沒予測についてとりまとめましたので、ご報告いたします。

○ 堅果類の作柄について

秋のクマの主食とされる堅果類のうち、本県における主要樹種のブナ、ミズナラ、コナラの作柄を調査している。調査の結果、全県での今年の作柄は、奥山に生育するブナが豊作、ミズナラが並作、里山に生育するコナラが並作となった。

○ クマの出没予測について

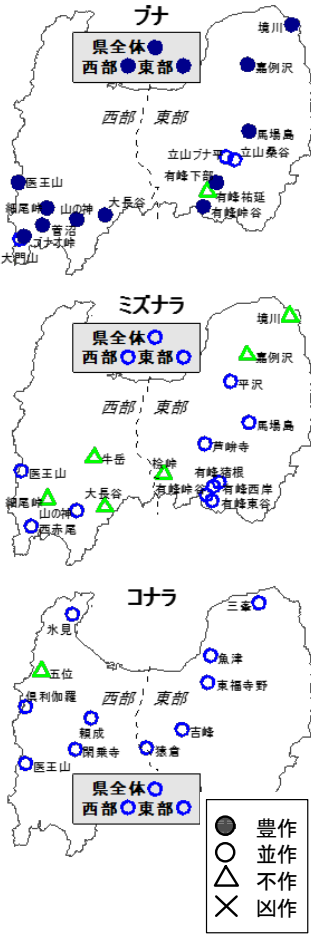
クマの出没と関係の深いブナとミズナラについて、ブナが並作以上の年はクマの大量出沒はみられない傾向があり、作柄としては、平成30年（2018）に比較的近い。このため、この秋は、クマの平野部での大量出沒の可能性は低いと予測される。

○ クマ出沒に対する警戒について

ただし、今年の春から夏（4～8月）にかけての出沒件数は261件と例年より多くなっており、河川敷周辺の市街地や山裾周辺で、カキなどの放任果樹がある人家周辺においては、特にクマの出沒に警戒する必要がある。人身被害の防止のため、放任果樹の伐採等の取組みを進めることが重要である。

●令和8年 堅果類 豊凶調査結果概要（樹種別）

樹種	ブナ (標高 800m 以上)
作柄	全県：豊作 (東部：豊作 西部：豊作)
調査箇所	15 箇所、357 個体
樹種	ミズナラ (標高 400～800m)
作柄	全県：並作 (東部：並作 西部：並作)
調査箇所	16 箇所、364 個体
樹種	コナラ (標高 400m 以下)
作柄	全県：並作 (東部：並作 西部：並作)
調査箇所	11 箇所、246 個体



●これまでの作柄の推移とクマ出沒状況等

	作柄			出沒件数 9～11月	捕獲数 9～11月	出沒区分
	ブナ	ミズナラ	コナラ			
H17	豊	並	不	8	0	
H18	凶	凶	不	698	133	大量出沒
H19	不	並	不	74	3	
H20	凶	不	不	106	17	
H21	不	並	不	27	1	
H22	凶	凶	不	1,196	161	大量出沒
H23	豊	不	不	40	0	
H24	凶	不	並	119	12	
H25	不	不	凶	46	6	
H26	凶	凶	並	231	56	準大量出沒
H27	並	不	不	31	0	
H28	不	不	不	171	71	準大量出沒
H29	不	不	並	73	12	
H30	並	並	不	28	3	
R1	凶	凶	不	761	153	大量出沒
R2	凶	不	不	363	105	準大量出沒
R3	並	不	不	69	16	
R4	不	不	並	59	21	
R5	不	不	不	466	89	準大量出沒
R6	不	並	並	98	16	
R7	凶	不	不	809	309	大量出沒
R8	豊	並	並			
			0～150	0～40	平常年	
			151～500	41～120	準大量出沒年	
			501～	121～	大量出沒年	

※調査機関等：県森林研究所が調査（ブナ7月下旬～8月、ナラ類8月中下旬）

※作柄は健全堅果落下密度や着果指数に基づき、豊作、並作、不作、凶作の4段階に区分